

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月22日 (2008.5.22)

【公表番号】特表2007-532697(P2007-532697A)

【公表日】平成19年11月15日 (2007.11.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-044

【出願番号】特願2007-509553(P2007-509553)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 K 31/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 31/522 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 9/08 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 31/14

A 6 1 K 9/10

A 6 1 K 31/522

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 9/08

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 19/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月2日 (2008.4.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、被験体の外科的部位に対して投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記外科的部位は、皮膚移植片を含む、組成物。

## 【請求項 3】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、少なくとも約 1 M であるイオン強度を有する、組成物。

## 【請求項 4】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、尿素を含む、組成物。

## 【請求項 5】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、糖質を含む、組成物。

## 【請求項 6】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、少なくとも約 9 である pH を有する、組成物。

## 【請求項 7】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、約 5 未満である pH を有する、組成物。

## 【請求項 8】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、少なくとも約 1000 であるオクタノール - 水分配係数を有する成分を含む、組成物。

## 【請求項 9】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、約  $10^{-3}$  未満であるオクタノール - 水分配係数を有する成分を含む、組成物。

## 【請求項 10】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンを含む、組成物。

## 【請求項 11】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記一酸化窒素ドナーは、約 0.05 重量% ~ 約 25 重量%である濃度を有する、組成物。

## 【請求項 12】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンの誘導体を含む、組成物。

## 【請求項 13】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンメチルエステルを含む、組成物。

## 【請求項 14】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンブチルエステルを含む、組成物。

## 【請求項 15】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、約 3 ~ 約 11 である pH を有する、組成物。

## 【請求項 16】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、塩化ナトリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、塩化カルシウムのうちの 1 種以上を含む、組成物。

## 【請求項 17】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、約 0.25 M ~ 約 15 M であるイオン強度を有する、組成物。

## 【請求項 18】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記不利な生物物理学的環境は、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、塩化カルシウムのうちの 1 種以上を含む、組成物。

## 【請求項 19】

請求項 1 に記載の組成物であって、

前記送達ビヒクルが、前記外科的部位近傍の組織に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項 2 0】

請求項 1 に記載の組成物であって、

前記送達ビヒクルが、皮膚に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項 2 1】

請求項 1 に記載の組成物であって、

前記送達ビヒクルが、脚部に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項 2 2】

請求項 1 に記載の組成物であって、

前記送達ビヒクルが、足部に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項 2 3】

請求項 1 に記載の組成物であって、前記クリームは、水、鉱油、グリセリルステアレート、スクアレン、プロピレングリコールステアレート、麦芽油、ステアリン酸グリセリル、ミリスチン酸イソプロピル、ステアリン酸ステリル、ポリソルベート 6 0、プロピレングリコール、オレイン酸、酢酸トコフェロール、コラーゲン、ステアリン酸ソルビタン、ビタミン A、ビタミン D、トリエタノールアミン、メチルパラベン、アロエベラ抽出物、イミダゾリジニル尿素、プロピルパラベン、PND、または BHA のうちの 1 種以上をさらに含む、組成物。

【請求項 2 4】

不利な生物物理学的環境中に一酸化窒素ドナーを含むクリームを含む、物品。

【請求項 2 5】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンを含む、物品。

【請求項 2 6】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記一酸化窒素ドナーは、約 0 . 0 5 重量 % ~ 約 2 5 重量 % の濃度を有する、物品。

【請求項 2 7】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記一酸化窒素ドナーは、L - アルギニンの誘導体を含む、物品。

【請求項 2 8】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記不利な生物物理学的環境は、約 3 ~ 約 1 1 である pH を有する、物品。

【請求項 2 9】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記不利な生物物理学的環境は、塩化ナトリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、塩化カルシウムのうちの 1 種以上を含む、物品。

【請求項 3 0】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記不利な生物物理学的環境は、約 0 . 2 5 M ~ 約 1 5 M であるイオン強度を有する、物品。

【請求項 3 1】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記不利な生物物理学的環境は、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、塩化カルシウムのうちの 1 種以上を含む、物品。

【請求項 3 2】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記クリームは、添加物をさらに含む、物品。

【請求項 3 3】

請求項 3 2 に記載の物品であって、前記添加物は、テオフィリンを含む、物品。

【請求項 3 4】

請求項 3 2 に記載の物品であって、前記添加物は、約 0 . 0 5 % ( 重量 / 体積 ) ~ 約 2 5 % ( 重量 / 体積 ) である濃度を有する、物品。

【請求項 3 5】

請求項 2 4 に記載の物品であって、前記送達ビヒクルは、水、鉱油、グリセリルステアレート、スクアレン、プロピレングリコールステアレート、麦芽油、ステアリン酸グリセリル、ミリスチン酸イソプロピル、ステアリン酸ステリル、ポリソルベート 6 0、プロピレングリコール、オレイン酸、酢酸トコフェロール、コラーゲン、ステアリン酸ソルビタン、ビタミン A、ビタミン D、トリエタノールアミン、メチルパラベン、アロエベラ抽出物、イミダゾリジニル尿素、プロピルパラベン、PND、または BHA のうちの 1 種以上をさらに含む、物品。

【請求項 3 6】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、末梢動脈疾患を有する被験体に対して投与されることを特徴とする

組成物。

【請求項 3 7】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、被験体の感染部位に対して投与されることを特徴とする、

組成物。

【請求項 3 8】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、跛行を有するかまたは跛行の危険がある被験体に対して投与されることを特徴とする、

組成物。

【請求項 3 9】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、神経障害を有するかまたは神経障害の危険を有する被験体に対して投与されることを特徴とする、

組成物。

【請求項 4 0】

不利な生物物理学的環境中に含まれた一酸化窒素ドナーを含む送達ビヒクルを含む、組成物であって、

該送達ビヒクルが、被験体の骨折した骨に対して投与されることを特徴とする、  
組成物。